

はじめに

本書は、薬剤師としての実践力を高めることを目的とした、調剤実務に特化したドリル形式の問題集です。実務実習を控える4年生の薬学生はもちろんのこと、病院や保険薬局に勤務する若手薬剤師、中途入職された薬剤師や復職された薬剤師の皆さまにも、幅広くご活用いただける一冊となっています。

薬剤師としての調剤業務は基本中の基本といえるスキルです。そして、その調剤を確実かつ安全に行うためには、確かな計算力が不可欠です。しかしながら、薬学生の段階から、「計数調剤でピックアップすべき数量とは?」「計量調剤で必要となる成分量の考え方とは?」「原薬量と製剤量の違いは?」「散剤や液剤のパーセント計算は?」といった、調剤にまつわる計算に苦手意識を抱く学生は少なくありません。また、薬剤師国家試験にとどまらず、実際の医療現場では、消毒薬の計算や高カロリー輸液・抗がん剤の調製に関する計算など、より実践的な知識とスキルが求められます。これらを系統的に学べる講義や書籍は決して多くなく、現場に出てから戸惑うケースも少なくありません。

そこで私たちは、「計算力は反復によってこそ身につく」という考えのもと、調剤実務に即した計算問題を、体系的に学べるドリル形式の書籍として本書を企画しました。執筆には、薬剤師としての実務経験をもち、現在は実務家教員として学生を指導する先生方や、実習現場で学生教育に携わっている先生方があたっており、現場目線の工夫を随所に盛り込んでいます。

各章では、まず計算における重要なポイントやコツを簡潔に示し、その後、例題を提示したうえで、理解を深めるための丁寧な穴埋め式の解説を加えています。さらに、練習問題から腕試し問題へと段階的にレベルアップできる構成とすることで、確実に実力を養えるよう工夫しました。調剤をまだ経験していない初学者にも無理なく取り組める内容となっており、また、新人薬剤師にとっては実践力の確認やスキルの強化にも役立つ一冊です。

本書を通じて、調剤に関する計算への苦手意識が払拭され、実際の現場で自信をもって業務に取り組める力を身につけていただければ幸いです。

2025年12月

東京薬科大学 薬学部

鈴木信也

星薬科大学 薬学部

須永登美子